

岐阜工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	0042		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	機械工学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	資料『政経2020』(東京学習出版社)						
担当教員	久保田 圭司,小早川 裕悟						
到達目標							
①資本主義経済の歴史の理解 ②景気循環など現代資本主義における経済現象の理解 ③20世紀後半以降の主要経済政策の理解 ④租税の理解と代表的な直接税の算定 ⑤クレジットの利用法や危険性の理解と返済パターンの算定							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 資本主義経済の歴史の理解		資本主義経済の基本的な歴史に関する問題を正確に解くことができる。		資本主義経済の基本的な歴史に関する問題をほぼ正確に解くことができる。		資本主義経済の基本的な歴史に関する問題を解くことができない。	
評価項目2 景気循環など現代資本主義における経済現象の理解		現代資本主義における経済現象に関する問題を正確に解くことができる。		現代資本主義における経済現象に関する問題をほぼ正確に解くことができる。		現代資本主義における経済現象に関する問題を解くことができない。	
評価項目3 20世紀後半以降の主要経済政策の理解		20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題を正確に解くことができる。		20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題をほぼ正確に解くことができる。		20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題を解くことができない。	
評価項目4 租税の理解と代表的な直接税の算定		所得税など代表的な直接税を正確に算定できる。		所得税など代表的な直接税をほぼ正確に算定できる。		所得税など代表的な直接税を算定できない。	
評価項目5 クレジットの利用法や危険性の理解と返済パターンの算定		販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを正確に算定できる。		販売信用や消費者金融の基本的返済パターンをほぼ正確に算定できる。		販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを算定できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		政治経済は高校など後期中等教育における社会科教科の一つであるが、現代社会に生きる技術者が必要とすると考えられる経済的識見を身につけることに重点を置いた構成とする。同時に消費者教育の一環として、クレジットや租税に関する計算能力を養う。					
授業の進め方・方法		授業は板書等による説明を中心に進める分野と、計算機を使い計算演習を行う分野に分かれる。					
注意点		テキストは必要に応じて参照するが、テキストに沿って授業を進めるわけではないので注意が必要である。計算課題は予習を前提に授業中に達成することを基本とし、論述課題は年2回期限を設ける形式で課す。いずれも提出は任意である。 学習・教育目標：(A－1)100%					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	年間ガイダンス、通貨概論		資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。		
		2週	販売信用のシミュレーション1 (分割払い)(ALのレベルC)		資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。		
		3週	販売信用のシミュレーション2 (リボルビング払い1)(ALのレベルC)		資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。		
		4週	販売信用のシミュレーション3 (リボルビング払い2)(ALのレベルC)		資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。		
		5週	消費者金融のシミュレーション1 (ALのレベルC)		資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。		
		6週	消費者金融のシミュレーション2(ALのレベルC)		資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。		
		7週	資本主義の歴史1 (商業資本主義)		資本主義経済の特質について理解する。 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解する。		
		8週	資本主義の歴史2 (産業資本主義1)		資本主義経済の特質について理解する。 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解する。		
	2ndQ	9週	資本主義の歴史3 (産業資本主義2)		資本主義経済の特質について理解する。 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解する。		
		10週	資本主義の歴史4 (ポスト産業資本主義1)		資本主義経済の特質について理解する。 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解する。		
		11週	資本主義の歴史5 (ポスト産業資本主義2)		資本主義経済の特質について理解する。 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解する。		

後期		12週	資本主義の歴史6 (ポスト産業資本主義3)	資本主義経済の特質について理解する。 産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解する。
		13週	販売信用と消費者金融の復習(ALのレベルC)	資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。
		14週	販売信用と消費者金融の復習(ALのレベルC)	資本主義経済の特質や金融などの機能について理解する。
		15週	前期まとめ	
		16週		
	3rdQ	1週	租税概論	財政・金融などの機能について理解する。
		2週	所得税のシミュレーション1 (基本パターン)(ALのレベルC)	財政・金融などの機能について理解する。
		3週	所得税のシミュレーション2 (家族がいるケースなど応用パターン)(ALのレベルC)	財政・金融などの機能について理解する。
		4週	住民税のシミュレーション1 (基本パターン)(ALのレベルC)	財政・金融などの機能について理解する。
		5週	住民税のシミュレーション2 (家族がいるケースなど応用パターン) (ALのレベルC)	財政・金融などの機能について理解する。
		6週	贈与税のシミュレーション(ALのレベルC)	財政・金融などの機能について理解する。
		7週	租税の復習(ALのレベルB)	財政・金融などの機能について理解する。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	公債	経済面での政府の役割について理解する。
		10週	景気循環1	資本主義経済の特質について理解する。
		11週	景気循環2	資本主義経済の特質について理解する。
		12週	物価変動	資本主義経済の特質について理解する。
		13週	基本的な金融政策	経済面での政府の役割について理解する。
		14週	国際通貨制度	経済面での政府の役割について理解する。 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解する。
		15週	総まとめ	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合

	中間試験または代替する演習課題	期末試験または代替する演習課題	計算課題	論述課題	学習態度	合計
総合評価割合	200	200	100	100	60	660
前期	100	100	50	50	30	330

後期	100	100	50	50	30	330
----	-----	-----	----	----	----	-----